PRO MUSICA NIPPONIA

# 日本音楽集団

## 第131回定期演奏会～秋の総合定期演奏会～

### ～現代邦楽名曲選～

1993年11月29日(月) 午後7時開演
津田ホール

主催／日本音楽集団
〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302
TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

# プログラム

## 1. 竹に同じく～15本の管のために～　　池辺晋一郎 作曲

〔笛〕西川浩平・越智成人
〔龍笛〕藤崎重康　〔笙〕西原貴子　〔ひちりき〕西原祐二
〔尺八〕Ⅰ三橋貴風・Ⅱ加藤秀和・Ⅲ水川寿也・Ⅳ石田忠史
Ⅴ添川浩史・Ⅵ米澤浩
〔鳥笛〕山崎千鶴子・中山さち子・嶋崎光代・山口こずえ
〔指揮〕田村拓男

日本の管楽器はほとんどが竹を素材にしている。そしてたとえば尺八は、竹林を風が抜ける時朽ちた竹が鳴る、そのように吹くことが理想とされている。

また、筒音ということばがあるが、巻いたり曲げたりすることなく、日本の管楽器はまさしく、筒だ。

筒という字は、竹に同じく、である。日本の管楽器は、竹そのものと同じ在り方をしようとしてきた。

敢えて、かつてとったことのない作法を試みた。詩を書き、それを線や点で視覚化し、最後に音化した。音楽を、文学や自然と密着させてきた日本人の感覚の私なりの具現。また一方で、ベートーベンの「田園」の方法のコラージュ。

(1979年、初演プログラムより)　　池辺晋一郎

## 2. 光(ひかり) 凪(なぎ)～龍笛と打物のための～　　一柳　慧 作曲

〔龍笛〕藤崎重康
〔打楽器〕臼杵美智代

私が『光凪』の表題のもとに、作品を書いてみようという考えをもつに至ったのは、石牟礼道子さんが書かれた『入魂』と題された文章に接したことが大きな要素になっている。『入魂』は不知火の海に対して書かれた短文であるが、石牟礼さんの美しい言葉の背景に水俣のイメージが重なり合うとき、その言葉は一層深められ、輝きを増してくる。

1982年、赤尾三千子氏のために作曲され5月東京文化会館小ホールで初演。

一柳　慧

## 3. 邦楽器のためのシャコンヌ　　安達　元彦 作曲

〔笛・能管〕西川浩平　〔ひちりき〕西原祐二
〔尺八〕Ⅰ石田忠史・Ⅱ米澤浩・Ⅲ水川寿也
〔胡弓〕畦地慶司
〔三味線〕野口美恵子・簑田司郎・坂口美香
〔琵琶〕田原順子
〔箏・地唄三味線〕花房はるえ　〔二十絃箏〕山田明美　〔十七絃〕宮越圭子
〔打楽器〕西川啓光・黒坂昇・望月太喜之丞・臼杵美智代
〔指揮〕田村拓男

'70年コロムビア・レコードの『日本音楽集団による三木稔の音楽』(芸術祭大賞受賞)の製作のお手伝いをさせて頂く機会を得て「集団」の方達と2、3ヵ月親しくつきあってもらい、また、三木さんのスコアを詳しく読んだりできたことが、この作品を書

く大きなふんぎりになりました。ＮＨＫディレクター長広比登志氏からの熱いはげましで生まれた曲です。

この作品は日本の伝統楽器の新しい表現領域開拓のために長い間ねばり強くやって来られた先人達の足跡――その総体を「運動」と呼んでもよい――を踏襲したい気持で書きました。そういう意味で、これは模倣性を自ら志したものといってさしつかえありません。

曲は、ヒチリキの長い独奏による序奏、箏群から始って徐々に楽器が増えて行く快速調の第１部、数人の独奏者達のゆっくりとした自由なアンサンブルによる前半と、打楽器群の競演による後半とからなる第２部、それに、再びヒチリキによる短いしめくくりからできています。

『シャコンヌ』という題名は、主として第１部に固執反復（必ずしも低音ではない）される４つの音をもっていること、および、この言葉の語源がメキシコ起源の荒々しい踊りであったとする説がある事、などに由来しています。

(1971年放送初演。1973年演奏会初演プログラムより抜粋)　　安達元彦

## 4. 秋の舞 II　　松下　功 作曲

〔尺八〕Ⅰ三橋貴風・Ⅱ藤崎重康・Ⅲ添川浩史・Ⅳ加藤秀和
〔胡弓〕畦地慶司
〔三味線〕細棹―簑田司郎・太棹―坂口美香
〔琵琶〕田原順子
〔箏〕Ⅰ花房はるえ・Ⅱ山田明美　〔十七絃〕宮越圭子
〔打楽器〕黒坂昇・望月太喜之丞

この「秋の舞 II」では、それぞれ独自な発展を遂げ現在の形態や音楽を形成してきたこれらの日本の楽器が、それぞれの奏法や、表現形態をあくまで固持しながらも、秋悠の情を共通理念とする一つの空間に融合しようと考えた。

舞台上に半円を描くように位置する２面の箏と１面の十七絃と２人の打楽器奏者「天」、客席内の４ヵ所、または舞台上でそれぞれが自由な方向を向いて演奏する胡弓、三絃、太棹、琵琶の４名「地」、客席内または舞台上を移動しながら演奏する４人の尺八奏者「人」の三つのグループが、それぞれ自由な速度で、あるいは自由な表現をしながら対峙、融合を繰り返す。(1989年初演プログラムより)　　松下　功

## 5. 平成元年のための巳楽～和楽器合奏のために～　　山本　直純 作曲

〔秦琴〕深草アキ（客演）
〔笛〕西川浩平・西原貴子
〔尺八〕Ⅰ三橋貴風・加藤秀和、Ⅱ米澤浩・石田忠史、Ⅲ水川寿也・添川浩史
〔三味線〕簑田司郎・坂口美香
〔琵琶〕田原順子
〔箏〕花房はるえ・桜井智永
〔二十絃箏〕山田明美・外山香　〔十七絃〕宮越圭子・島崎春美
〔打楽器〕西川啓光・黒坂昇・臼杵美智代
〔指揮〕田村拓男

楽器と云うものを人類が楽しむ様になって永い時が流れた。○日本の楽器が当り前だった時代。○日本の楽器が珍らしくなった時代。そして今、日本の楽器、音楽を改めて考え直す時代がやって来た。日本人のたべ物、そばやうどんをいつまでも愛するように、日本で生まれ、育った楽器を、もう一度心ゆくまで楽しんで載きたい。そんな気持から、フルート合奏や、ブラスバンドの為に書いた「平成元年の序曲」を改訂して、「平成元年の巳楽」としました。(1989年、初演プログラムより)　　山本直純

# 「邦楽器のためのシャコンヌ」をめぐって

長廣比登志（NHK音楽・FM番組部チーフ・ディレクター）

ひさしぶりになつかしいこの曲にあえる。『現代の日本音楽』という番組で、「現代邦楽」を毎週放送していたころ。もう20年以上も前。制作・演出担当のひとりであったわたくしが、はじめて芸術祭参加作品をてがけたおもいでの曲。「集団」のみなさんの熱演・力演、篳篥の名手東儀博さんのたくましい演奏、秋山和慶さんの駆動力みなぎるタクト。おかげさまでその年の優秀賞を頂戴できました。（審査員＝委員長：吉川英史、委員：小島美子、武川寛海、長尾一雄、丹羽正明、古田徳郎、門馬直美）

安達さんは、当時、日本の伝統の特質である「ワビ・サビ」以前の、もっと根元的な特性を、邦楽器のなかからひきだそうと、腐心しておられました。〈シャコンヌ〉についての、かれのメモを引用させていただくと、上述の伝統的特質以外に、「しつこさ・太さ・荒ぶれさ・ある粘着力をもった力感・持続への指向、といった非ワビ・非サビ的特徴」を、民俗芸能のなかでなく、近世邦楽を、すこし角度をかえてみることでみいだせるのではないか、と。そこで、「篳篥を誘発剤」にして、邦楽器が内包している、とかれがしんじてやまない「非ワビ・非サビ的特徴」を、この曲でひきだそうとしました。うまくいったのではないでしょうか。

「現代邦楽」がかかえるおおきな課題は、作曲家ひとりひとりが、内なる「邦楽観」、あるいは「日本音楽観」を、いかに作品化するのか、につきるのでは。〈シャコンヌ〉発表当時は、「現代邦楽」の第一次ピーク。そのころ、〈シャコンヌ〉ほどに、邦楽器の伝統的な特性も習性も、美も価値感もひっぺがし、邦楽器じしんも気がつかない、潜在的ともおもえる「音」を発揮させた作品を、わたくしはしらない。まるで熱にうなされたような演奏を録音した71年８月６日の夕方、編集もそこそこに、芸術祭参加候補作品の局内オーディションにとびこんだ。当時の上司に、「仮録音でもいいのですか」と念をおした。「これは、おもしろい。いいじゃないか」と、率直に感動をあらわしたのが現会長の川口幹夫だった。即座に出品が決定した。（その年の参加作品：NHK10曲、民放３曲）

当時、芸術祭参加作品ともなると、手間ひまは当然であった。しかし、この曲はリハーサル・録音あわせて２回づつ。編集はほとんどなかった。演奏も録音も、一気呵成だった。そういういきおいの作品だった。

こんや、ふたたび感動をあらたにできる。ありがとう、「集団」のみなさん。

## 演奏記録

| | | | |
|---|---|---|---|
| 放送記録 | 71年11月９日「ステレオ邦楽鑑賞」（芸術祭参加番組）23分25秒 | | |
| | 71年12月22日「現代の日本音楽」（芸術祭優秀賞受賞決定後の再放送） | | |
| | 72年３月15日「現代の日本音楽」22分25秒（３月４日旧ＮＨＫホールの「現代の日本音楽」公開録音から。 | 篳篥：東儀　博 | 指揮：山岡重信） |
| 演奏会 | 73年１月24日　都市センターホール | 篳篥：東儀　博 | 指揮：田村拓男 |
| | 75年５月29日　都市センターホール | 篳篥：東儀　博 | 指揮：田村拓男 |
| | 79年５月８日　都市センターホール | 篳篥：大窪永夫 | 指揮：田村拓男 |
| | 82年５月10日　都市センターホール | 篳篥：大窪永夫 | 指揮：安達元彦 |
| | 87年７月７日　朝日生命ホール | 篳篥：大窪永夫 | 指揮：田村拓男 |
| レコード | 75年２月　オーディオ・ユニオン社 | 篳篥：東儀　博 | 指揮：田村拓男 |

## 日本音楽集団今後の主な活動予定

12月15日(水)　横浜市音楽研究会　神奈川公会堂

1994年

1月21日(金)　かつしか新春コンサート　かつしかシンフォニーヒルズ

1月23日(日)　**第132回定期演奏会「第五回邦楽器の祭典」**～ワークショップ・邦楽器のそこが知りたい　中野ZERO西館小ホール

1月26日(水)　**第132回定期演奏会「第五回邦楽器の祭典」**～日本音楽集団30年の活動と、過去4回の邦楽器の祭典から秀作を集めて　津田ホール

1月27日(木)　**第132回定期演奏会「第五回邦楽器の祭典」**～日本作曲家協議会会員作品による　バリオ・ホール

3月2日(水)～14日(月)　第20次海外公演～オーストラリア・アデレイドフェスティヴァルに出演（8公演）

4月13日(水)　甲府子ども劇場

5月13日(金)～31日(火)　かわさきおやこ劇場

5月21日(土)～22日(日)　東京子ども劇場

5月26日(木)　**第133回定期演奏会～春の総合定期**　津田ホール

## 日本音楽集団(1993年5月から)の主な活動記録

1993年

5月12日(水)　**第128回定期演奏会**――長沢勝俊の世界　津田ホール

5月26日(水)～6月2日(水)　高松市中学校巡回公演

6月5日(土)　江南楽友協会第27回ぱーぷるコンサート　江南市民文化会館

6月14日(月)～18日(金)　佐賀県中学校巡回公演

6月15日(火)　第17回弘法大師をたたえる夕べ　京王プラザホール

6月20日(日)　佐倉市青菅小学校伝統芸能鑑賞会

6月21日(月)～25日(金)　長崎県学校巡回公演

6月27日(日)　'93大田音楽フェスティバル　大田区民プラザ大ホール

7月8日(金)　上福岡市中学校巡回公演

7月9日(金)　**第129回定期演奏会**――祭イリュージョン　津田ホール

7月11日(日)　大社町(島根)公演　大社町文化センター

7月16日(金)　日本音楽集団コンサートまつりin深川　永代信用組合本店ホール

7月27日(火)　中野ZEROホールコンサート　中野ZEROホール

8月20日(金)　富谷町(宮城県)教育委員会　富谷町東向陽台公民館

8月26日(木)　21世紀の創造人のための国際学生フォーラム　十和田湖畔宇樽部の里・花鳥渓谷

9月29日(水)　**第130回定期演奏会**――箏特集　津田ホール

10月5日(火)　川崎北ライオンズクラブ30周年記念公演　川崎教育文化会館

10月6日(水)　愛甲郡清川村中学校公演

10月10日(日)　電力館コンサート「世界に羽ばたく邦楽器たち」　渋谷電力館

10月12日(火)　町田市立三輪小学校音楽鑑賞教室

10月13日(水)～15日(金)　兵庫県学校巡回公演

10月19日(火)　IFAWPCA東京大会　ホテルニューオータニ

10月22日(金)　掛川東高等学校音楽鑑賞会　掛川市生涯学習センター

10月30日(土)　横浜市立笹野台小学校音楽鑑賞会

11月1日(月)　VOICE 93公演　立川市昭和記念公園

11月4日(木)　京都公演　京都府立府民ホール

11月6日(土)　宝塚公演　宝塚バウホール

11月6日(土)　横浜市立左近山第一小学校音楽鑑賞会

11月26日(金)　富士公演～柳家小三治＆日本音楽集団ジョイント　ロゼシアター中ホール

11月29日(月)　**第131回定期演奏会～秋の総合定期・現代邦楽名曲選**　津田ホール

## お知らせ

日本音楽集団は来年創立三十周年を迎えるにあたり、海外公演を含む多彩な計画を予定しています。第20次海外公演として３月２日に日本を出発し、オーストラリアのアデレイドフェスティバルに参加します。12日間滞在し、三木稔の「序の曲」「急の曲」、吉松隆の「弥勒効果」をアデレイド・シンフォニーケストラやアデレイド・チェンバーオーケストラなどと共演する他、長沢勝俊、池辺晋一郎、佐藤敏直、松下功、新実徳英諸氏の作品を８公演にわたって演奏し、日豪の音楽交流を深めます。（国際交流基金、東京都文化振興会助成）

秋には10月６、７、８日三夜にわたってニューヨークフィル定期演奏会で「急の曲」を共演するのを皮切りに、約１ヵ月間のアメリカ公演（第21次海外公演）を行ないます。

表紙：鷹野ゆき子モザイク画〝冬〟


INTERNATIONAL MUSIC SERVICE
ims

アイ・エム・エス ●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻２—21—25
オリオンシャトー1F
PHONE. 03-3397-2292
FAX. 03-3397-7728

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和樂器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437